

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アプリ児童デイサービス高津ハウス			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日 ~ 2026年 1月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	2025年 12月 20日 ~ 2026年 1月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの事を充分に理解し、特性に合った支援・環境・個別支援計画が成されている。	毎日二度の振り返りや、書面・共有ツール等を用いた全職員での情報共有を行い、日々の記録やモニタリングに基づいた支援計画作成や面談を行っている。	職員同士の情報共有をより密にして様々な個別のパターンを情報収集し、分析に基づいた具体的な改善方法の模索を継続する。
2	子ども本人・ご家族ともに、希望する支援や相談対応の体制が整備されていて、迅速かつ確実に具体的な支援内容を設定できている。	相談に対して常に迅速適切な対応を心掛け、子ども・ご家族とも最も最善と思われる具体的で希望的な支援内容を提示できるよう留意している。自施設対応範囲外と判断したことは、相談支援事業所・学校等に積極的に情報共有・支援要請を行うよう心掛けている。	学校との情報連携が不足していると感じているため、より親密な対応ができるようにしていきたい。
3	子どもや家族との意思の疎通や情報伝達のための配慮が成されている。	子どもの意思表示に注意し、伝達方法をことばや仕草、絵カードやタイマー等の環境設定で延ばしていくよう配慮している。また、子どもの成長に伴い、新たな伝達方法を模索し、試してみるよう留意している。	支援に対してのPDCAサイクルを回し、より深く分析して更なる支援に繋げる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族等で参加できる研修会・情報提供・ペアレントトレーニング等の機会が少ない。	家族が参加し、共に学んだり情報交換したりする場が用意できていない。	引き続き、年一回程度でも交流会勉強会等の機会創設を図ることが課題。
2	保護者会や支援参観の開催や父母の会の活動支援等、保護者同士の交流の場が少ない。	家族間交流・きょうだい児支援につながる交流の機会が用意できていない。	年一回程度でも交流の場を創設していきたい。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業所運営を図る機会が少ない。	地域との交流については、不定期な公園利用や外出イベントに留まっている。	地域の活動などを利用し、定期的な交流の機会を模索したい。